

第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム

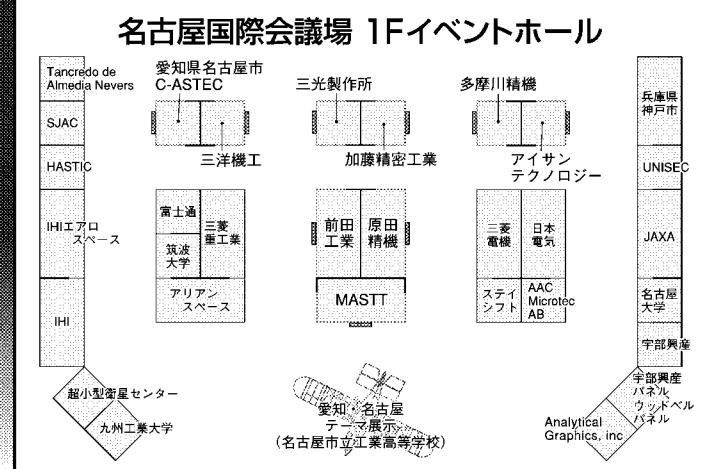
会期：平成25年6月2日(日)～6月9日(日)

国内外の宇宙工業、宇宙科学、宇宙医学、宇宙法等広い分野の研究者、技術者、その他関係者が一堂に会し、研究発表および討論を行う場の提供などを目的に、隔年で開催される国際会議で、国際宇宙展示会(企業向け・一般向け)が併せて開催されます。

第29回ISTS 国際宇宙展示会

企業向け
会 場：名古屋国際会議場
会 期：6月3日(月)～6月5日(水)
入場料：無料

一般向け
会 場：名古屋市科学館 ※3日(月)は休館日
会 期：6月2日(日)～6月9日(日)
入場料：無料 ※科学館の観覧料は必要



宇宙航空研究開発機構(JAXA)による、小惑星探査機「はやぶさ」実物大模型の展示など宇宙航空分野の企画展示に併せて、工作教室等の教育イベントも実施されます。



■問合せ先 名古屋市市民経済局産業部 次世代産業振興課 TEL 052-972-2418

SL-6型

ホーム・工業界初の日本製特許取得!!

株式会社トーヨー

〒470-0131 愛知県日進市岩崎町向イ田128の1
TEL (0561) 73-3331 FAX (0561) 74-1268

トーヨー スーパーラッパ 検索 <http://www.toyo-japan.co.jp/>

航空機産業

世界シェア獲得を目指して

参入への課題

海外と直取引へ

新興国での需要増などを背景にグローバルで注目される航空機市場の成長。2031年末には主力のジェット機だけで現状の倍規模の3万7000機近く連航する見込み。この市場をめくり航空機産業には強い関心が寄せられ、国内では地域コンソーシアム拡充が進んでいる。中国、韓国など日本以上に国策で航空機産業の振興に積極的となる中、コスト競争も激化。日本の中堅・中小企業が本当にすそ野を広げていけるのが重要な時期を迎えている。

米ボーイングや欧州エアバスの増産計画の中、大手重工系経路の部品加工で実績を持つ企業は繁忙感が強くなっている。日本企業が多く手がける大型機「777」や連航再開したばかりの中型機「787」関連など増産計画は目白押し。機械加工業者からは「表面処理機を増設して対応」「工場の24時間稼働で量産加工を手がける」などの声が聞かれる。

一方で今後の参入を狙う企業にとってその障壁の高さは並大抵ではない。航空機業界で独特の品質管理手法の把握から、取引のベースとなる英語力まで課題は数多く横たわる。航空機産業のメインである欧米と比べ日本では小規模企業が多く、開発投資の資金力の問題もある。

1社単独で取り組むのがなかなか難しい航空機産業に参入するため、レベラアップや共同受注体制の確立を目指す全国各地でコンソーシアムの動きが活発だ。東京都の支援事業などで航空機産業参入のためのコンサルタントを手がけているのがJALエアロ・コンサルティング、JALの機体



国内外でボーイング「787」が運航再開される



東京都における航空機産業への参入支援事業「課題検討会」

東京都における航空機産業への参入支援事業「課題検討会」の様子。参加者は航空機産業関係者や行政関係者など。会場には航空機模型や資料が展示されている。

地域越え連携

近年、全国各地で地上がったコンソーシアムは勉強会からスタートし、中核企業を中心とする共同受注スタイルの確立など少しずつ成果をみせているところもある。行政の支援も増えている。例えば関東経済産業局では4月に地域経済部次世代産業課の中に新たな航空宇宙産業室を設け、6月には管内の関連企業向けに「広域関東圏の航空機産業の今後に係る中小企業の会」を開き、連携を呼びかける。海外企業との直取引などを見据えているとされる。

ティア2以下が多い日本企業にとっては、ステッブアップがますます難しくなっているものの、一部の小物部品などで受注のチャンスが増える場合もあるとの声もある。世界市場でプレゼンスを高めるためには、力をつけるアジアの企業と比べたコスト競争力を含め、多方面から航空機産業を見つめ直し、知識、経験を増していく地道な取り組みが欠かせない状況だ。

また実際の受注確保には新機種の開発タイミングなど情報収集が必須となる。こうした中でサプライチェーンの構造変化も見逃せない。ボーイングなど航空機メーカーが自社の製造領域を減らしシステムインテグレーション化したことで、欧米中心のティア1企業が手がける分野が増え、ティア2以下の部品供給企業へのコントロール力が強まっているとされる。

握る企業のため、地域を越え情報や技術の交流などレベラアップを模索する。

日本の宇宙開発

科学技術の未来を拓く

宇宙開発産業の育成は航空機産業とともに世界各國の戦略分野で、技術波及効果なども期待される。こうした中、6月2日から9日までの8日間、宇宙開発分野国際会議「第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)」が名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開かれる。主催は第29回ISTS組織委員会と日本航空宇宙学会。共催は名古屋大学。今回は開催日のうち3日から3日間、1階イベントホールで宇宙開発関連企業や団体が出展する展示会もあり、関係者が集結する。

精密機械加工・精密歯車・減速機(設計・製作)

株式会社 明和工作所



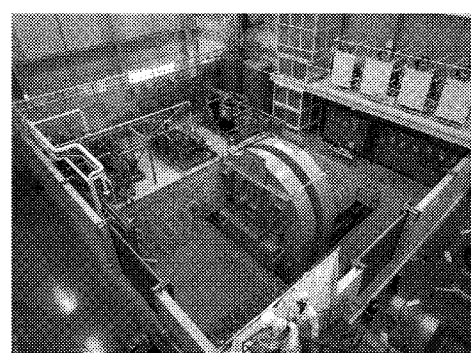
航空宇宙認証 JIS Q 9100 取得

〒720-0017 福山市千田町4丁目14-12 ((協) 福山鉄工センター内)
TEL.084-955-2122 FAX.084-955-3597
TEL.0120-022122 FAX.0120-883597
URL: <http://www.kk-miw.com> E-mail: meiwa@kk-miw.com

the metal solution®

HIPテクノロジーで世界をリードする

HIP(熱間静水圧プレス)とは
金属粉末の焼結や、溶接が困難な金属同士の接合、それに鋳造品の内部欠陥除去など、モノづくりの基礎をなす重要なテクノロジーです。金属技研はこのHIP装置を1984より導入し、2010年は世界最大級HIP装置「Giga-HIP」を稼動させて、さらなる金属の可能性を切り拓きました。



Giga-HIP

金属技研は、金属熱処理、接合、HIP処理など様々な特殊技術をモノづくりの基幹とし、機械加工技術を融合することによって、上流から下流まで一貫した受託加工を行っており、液晶・半導体分野からエネルギー分野、さらには航空・宇宙分野まで幅広く手掛けております。2012年に新設した成田工場を拠点とし、Pratt & Whitney社との契約のもと、航空機用エンジン部品の修理事業を始めました。

これからも金属技研はHIPテクノロジーをはじめとする高い技術力をもって、社会・人・くらしへの貢献を通じて、皆様に愛され、信頼される企業を目指し、ためめ努力を続けてまいります。

mtc 金属技研株式会社
Metal Technology Co. Ltd.

本社/〒164-8721 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー27階 TEL: 03-5365-3050(代) FAX: 03-5365-3055
群馬工場/茨城工場/成田工場/千葉工場/神奈川工場/滋賀工場/姫路工場/テクニカルセンター/上海連絡事務所
坂上金属技研(蘇州)有限公司

ぜひホームページをご覧ください。

金属技研

検索

www.kinzoku.co.jp